

平成18年8月分 検査結果の概要

簡略な説明のため、若干正確性を欠く面もありますが、正確には従来どおり個表をご覧ください。

放流水等水質調査結果（（1）表）

最終排水口での測定結果。

代表項目	項目の説明	処理目標値	測定値	コメント
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。	500 (4～8月限定)	130～360	利水時期ですが問題のない値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	20	0.5 未満～4.7	問題のない値でした。
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	20	4～17	問題のない値でした。
有害物質等 (mg/l)	細目協定で定めている全ての有害物質等（砒素などの重金属類、PCB などの有機塩素化合物、シマジンなどの残留農薬など 35 項目）について測定した。	細目協定に掲げるそれぞれの値	定量下限値未満もしくは異常のない値でした。	問題のない値でした。

地下水（シート下）と、2本の井戸水のモニタリング自動測定結果

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。		6.0～7.6	従来と変わりなく、問題のない値でした
EC (mS/cm)	溶けているイオンの種類により差異はあるが、イオンの濃度が高いたかいほど数値が大きい。		0.1～1.0	従来と変わりなく、問題のない値でした

公共用水域水質調査結果（（2）表）

エコパークから和島村付近まで、古志茂橋（中田川）、矢郷橋、堰橋、乙茂橋（以上島崎川）で同日に採水したものです。また古志茂橋の上流に落ちている生活排水の影響を調べる為、その排水口とそのすぐ下流からも採水しました。

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	50	10～29	問題のない値でした。
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。		23～97 生活排水 33	各地点ともおおきな差異はなく問題のない値でした。また生活排水は 33 と低い値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	5	1.1～1.7 生活排水 1.2	各地点ともほとんど差異はなく環境基準の範囲内で問題のない値でした。生活排水は 1.2 と問題のない値でした。
全窒素 (mg/l)	水中の有機物が分解される過程でいろいろな形態の窒素化合物が生成されるが、その窒素の総量。		0.83～2.5 生活排水 1.1	各地点とも差異はなく問題のない値でした。生活排水は 1.1 と問題のない値でした。環境基準はありません。なお同時に測定した硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素も環境基準の範囲内で問題のない値でした。
全燐 (mg/l)	島崎川の 3ヶ所で測定。水中に含まれる燐化合物の燐の総量。燐化合物の増加は各種排水の混入に由来する場合が多い。		0.10～0.11	問題のない値でした。
ほう素 (mg/l)	自然界にさまざまな化合物の形で存在する。植物・動物にとって必須不可欠の元素。	1.0	1.9	晴天が続く、古志茂橋では中田川の水量が少なくて放流水(濃度 2.3)がほとんど希釈されませんでした。

今回の測定では生活排水に汚れは見られませんでした。

粉じん（空气中浮遊アスベスト）調査結果（（3）表）

稲川集落内道路で空气中に浮遊しているアスベストを調査しました。

7月には雨が続き調査できなかったため、8月に2回実施しました。

調査結果：

- ・ いずれも、空気 1 リットル中のアスベストは 0.3 本未満で問題のない値でした。

農業用水水質調査結果（（４）表）

農業用水として使用している防災調整池から採水調査したものです。

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。		6.9	問題のない値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	5mg/l 以下	3.7	問題のない値でした。
DO (mg/l)	数値が高いほど水に溶け込んでいる酸素の量が多い。	5mg/l 以上	5.7	問題のない値でした。
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。		170	利水期ですが問題のない値でした。
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素 (mg/l)	土壌や水中の有機物分解でアンモニア塩が生成され、更に硝化菌により分解されたもの。	10mg/l 以下	0.43	問題のない値でした。

発生ガス調査結果（（５）表）

埋立物から発生するガスを調査する為、処分場内のガス抜き管から直接ガスを採取し、その濃度を調べたものです。

< 測定結果 >

- ・ メタンの濃度が 14.2（昨年 6 月 10）、硫化水素の濃度が 43（同 83）と比較的高い数値でした。今回は 1 期処分場中央部ガス抜き管で調査しましたが、1 期処分場は内部貯留水位が高く嫌気（無酸素）状態であったため、メタン・硫化水素の発生が増えたものと考えられます。
- ・ 他のガスは今までと変わらず、特に問題のない数値でした。

公共用水域底質調査結果((6)表)

排水の流れる公共用水域(中田川)の泥に、有害な物質が含まれていないかを測定したものです。

代表項目	項目の説明	除去基準値	測定値	コメント
鉛 (mg/kg)	泥に含まれる鉛とその化合物の総量。		7.0	昨年(26.0)より低く、問題のない値でした。
砒素 (mg/kg)	泥に含まれる砒素とその化合物の総量。		9.0	昨年(8.9)とほぼ同じで、問題のない値でした。
総水銀 (mg/kg)	泥に含まれる水銀とその化合物の総量。	25ppm 以下	0.02	昨年(0.04)より低く、問題のない値でした。
カドミウム (mg/kg)	泥に含まれるカドミウムとその化合物の総量。		0.1	昨年(0.1)と同じで、問題のない値でした。
銅 (mg/kg)	泥に含まれる銅とその化合物の総量。		10	昨年(18)より低く、問題のない値でした。

埋立量年次推移 (平成11年度から平成17年度までは測量実績値)

	単年度(m3)	累計(m3)	残容量(m3)
平成11年度	76,464	76,464	1,407,536
平成12年度	117,876	194,340	1,289,660
平成13年度	154,102	348,442	1,135,558
平成14年度	84,916	433,358	1,050,642
平成15年度	106,886	540,244	943,756
平成16年度	97,026	637,270	846,730
平成17年度	92,195	729,465	754,535
平成18年度(4~8月)	42,695	772,160	711,840